

協力型ゲームの遊び方

対象：3人

目的

ゲームの目的

ネズミ3兄弟に降りかかる**アクシデント**に対して、プレイヤー同士で協力し合ってチーズを補給し合い、ゲーム終了まで、3人全員が生き残れるかで勝敗が決まります。

学習効果

手持ちカードから **㊟主語** **㊥間接目的語** **㊤直接目的語** **㊢述語** を出し合って、1つの文を作ります。ゲームを進めて行く中で、主語述語を判断する力が身につけていきます。

準備

① 参加者はそれぞれ、自分がどのキャラクターになるかを決めます。

② 手持ちカードは、

㊟主語：3人×4枚

㊥間接目的語：3人×4枚

㊤直接目的語：3人×2枚、2点×4枚、

1点×6枚

㊢述語：あげる×3×2枚、もらう×3×2枚

これら合計 48枚をひとまとめにしてシャッフルした後、3人に配りきります。



③ 回復カード6枚をシャッフルした後、3人に2枚ずつ表向きに配ります。



⑤ ライフカード(2枚セット)は3人に配り、残りライフが6になるように、重ねた状態にします。

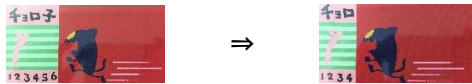


④ アクシデントカードはシャッフルした後、山にしておきます。

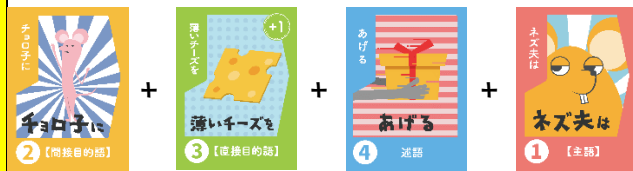


ゲームの進行

① 誰から始めるか、ジャンケンなどで決め、山から**アクシデントカード**を1枚めくります。カードの指示に従い、最初の人**のライフ**を減らします。(ライフカードの重なりをずらして、ライフを減らしてください。)



② 次に、順番に**手持ちカード**から1枚ずつ出して、一つの文(㊟主語 ㊥間接目的語 ㊤直接目的語 ㊢述語)を作っていきます。最初の人(アクシデントに遭った人)は**4種類のカード**のどれを出してもかまいません。次からは残りの品詞のカードを出さなくてはなりません。



③ 4種類のカードが揃って1つの文が完成したら、その指示に従ってライフを回復させることができます。

左の例の場合、「ネズオは**チョコロ子**に**薄いチーズ**を**あげる**。」という文ができあがります。この時にネズオが薄いチーズの**回復カード**を持っていれば、チョコロ子はライフを+1回復できます。

ただし、該当者が指示と同じ**回復カード**を持っていなかったら、**ライフ**を回復させることはできません。

※**回復カード**は一度しか使えません。使用後は、裏返しにしてください。

※「**チュー太郎**は**ネズオ**に**小さなチーズ**を**もらう**。」という文が完成したとき、ネズオが回復カードの**小さなチーズ**を持っていなかったら、**チュー太郎**のライフを回復させることはできません。

※「**チュー太郎**は**チュー太郎**に**大きなチーズ**を**あげる**。」という文の場合は、そのまま指示通り自分自身にあげるという指示として進めてください。

※**アクシデントカード**12枚に対して、**回復カード**は6枚しかありません。回復できない6回を、上手くやりくりするのが勝利のポイントです。

④ **手持ちカード**が無くなるまで、ゲームを進めてください。

手持ちカードに出せるカードが無い場合は、パスとなります。(出せるカードを持っているのに都合が悪い場合は、出さなくても良い or 出さなくてはならない、どちらのルールでもかまいません。都合悪い場合出さなくて良いとすれば、ゲームの難易度が下がり、成功の確率は上がります。)

⑤ 3兄弟それぞれの残り**ライフ**が1ポイントでも残っていれば、成功となります。

※途中で誰か一人の**ライフ**が0になってしまった時点でゲームは負けとなります。

※スタート時の残り**ライフ**を増減することで、ゲームの難易度を変えることができます。

※途中で回復の指示が重なって、10より大きい**ライフ**になりそうな場合は、10で打ち止めとなります。

この場合、**回復ポイント**が無駄に使われてしまうので、成功の可能性が落ちるので要注意です。

「協力プレイでは物足りない、やっぱり勝負にこだわりたい!!」

という人は、対戦型ゲームをどうぞ。

ホームページでは、詳しい説明とその他の遊び方も紹介しています。HP : lonely-sensei.com